

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	125人	社会	125人	数学	125人
	理科	125人	英語	125人		

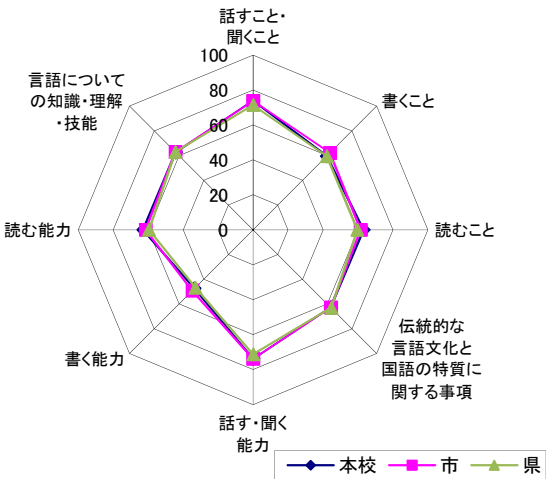
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	73.9	73.8	71.3
	書くこと	59.6	62.2	59.6
	読むこと	63.2	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.7	62.9	63.1
観点	話す・聞く能力	73.9	73.8	71.3
	書く能力	47.5	49.2	46.8
	読む能力	63.0	61.5	59.6
	言語についての知識・理解・技能	62.6	62.9	62.9



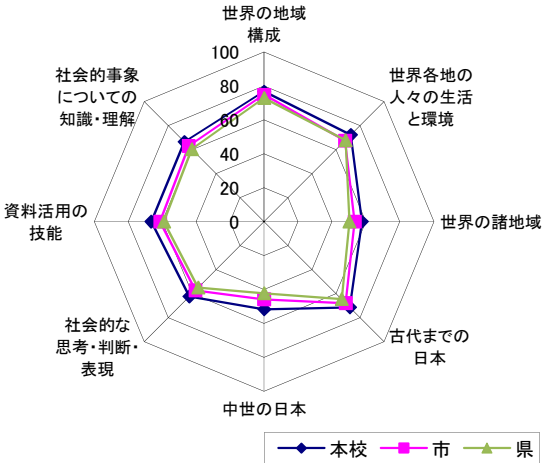
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は県、市よりも高い。 ○出された意見をよりよくするための意見を適切に述べることはよくできている。また、聞き手に理解してもらうための話の構成や話し方の工夫もよく理解している。 ●司会者の話し合いの進め方の工夫について理解しているが県の正答率より低い。	・今後も、相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの意見を検討して自分の考えが広げられるように指導していく。 ・視野を広げるために、地域社会の中で見聞きしたことや、テレビ、新聞などから社会生活の出来事や情報に関心を持たせ、自分の考えが広げられるように指導していく。
書くこと	●平均正答率は県と同じだったが、市よりは低かった。 ●詩の表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。	・詩の表現技法やその効果をもう一度確認させ、根拠を明確にして自分の考えを書く練習を何度も行う。 ・書いた文章を互いに読みあい、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり、助言したりして、自分の考えを広げられるように指導する。
読むこと	○平均正答率は、県、市よりも高い。 ○文章の構成や展開をとらえることができることは県の正答率より10%上回っている。意見をもとに3つのポップを見比べて、相違点を見つけることができることは10.3%で県の正答率より上回っている。 ●文章の内容を整理し、要旨を捉えることが県の正答率よりも2.2%下回っている。	・今後も文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる機会を多く取り入れる。 ・多くの文章を読ませ、文章に表れている、ものの見方や考え方について知識を身に付けさせるとともに、自分の考えをもつようにさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は、県、市よりも低い。 ○1年生までの漢字の読みは県の正答率よりも上回っている。 ●単語について理解しているが前年度よりも、県の正答率より2.2%下回っている。歴史的仮名遣いは県の正答率より、5%下回っている。	・漢字の読み書きを身に付けさせるために、漢字プリントを配布し、確認テストを行う。 ・単語については、単語の種類、意味、働きを再度確認させ、単語を正しく使うことで、日常の言語活動の上で互いの伝えたい微妙なニュアンスを相手によりよく伝えられることを理解させたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	76.7	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	72.3	67.5	67.8
	世界の諸地域	57.6	53.4	50.2
	古代までの日本	71.4	68.0	64.6
	中世の日本	51.6	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	62.4	57.3	55.0
	資料活用 の技能	66.5	61.4	59.1
	社会的 事象についての知識・理解	66.5	62.9	60.3



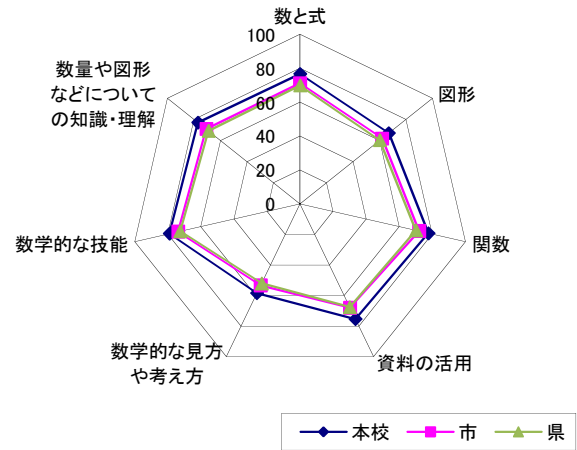
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○平均正答率は、すべての問題において県・市よりも高い。 ○様々な地図を活用する問題の正答率は県平均を6%上回っている。	・引き続き基礎基本の定着を図りたい。
世界各地の人々の生活と環境	○平均正答率は、県・市よりも高い。 ○雨温図の読み取りが92%とかなり高い。気候に関する問題は正答率が高かった。 ●雨温図からどのような住居に住んでいるのか判断する問題が下回った。世界各地の住居と世界各地の生活についての問題の正答率は県平均を1%下回っている。	・今後、気候と住居の結びつきの認識が薄い。復習が欠かせない。写真資料の活用など、思考・判断力を高める授業を心がける。
世界の諸地域	○平均正答率は、県・市よりも高い。 ○基礎基本となる知識は県・市を大きく上回っている。 ●複数の資料から読み取り考察し説明する問題は、県・市を4%上回っているが、27.6%と正答率が低い。	・解答を見るかぎり資料の読み取りはできるが、そこから考察するにまで至っていない。2年生の「日本の諸地域」の単元でも資料から読み取り考察する練習を重ねたい。
古代までの日本	○平均正答率は、県・市よりも高い。 ○全体的に基礎基本となる知識は身についている。特に、聖徳太子という人物名を答える問題では県・市を15%上回り9割近い正答率である。 ●平安京の位置を地図から探す問題の正答率が50%を下回っている。	・歴史の授業の中でも、写真資料などの視聴覚教材や、歴史地図・年表などの有効活用の方法を研究する。
中世の日本	○平均正答率は、県・市よりも高い。 ○承久の乱によって鎌倉幕府のしくみがどのように変わったかを記述する問題は、昨年を14%上回っていた。 ○史実の順番を整理して答える問題では、36%と低い。県平均と比べると10%上回っている。 ●年代を表す「何世紀」という問題の正答率が50%を下回っている。	・年表を活用することで、年代・世紀を確認した授業展開を心がける。また、資料活用、思考・判断力を伸ばすことを意識した授業展開を心がける。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	76.7	71.2	69.8
	図形	67.0	61.9	60.2
	関数	77.6	72.1	70.1
	資料の活用	75.4	68.0	67.6
観点	数学的な見方や考え方	58.5	53.4	52.1
	数学的な技能	79.0	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	77.0	70.8	69.1



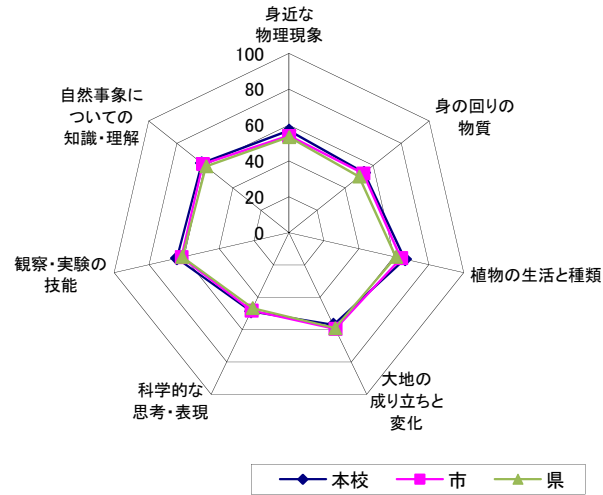
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○本校の正答率は市平均より5.5%、県平均より6.9%高い。	・学校の取り組みとして学びあい活動を行っている成果と考えられる。さらに学びあい活動を充実させ、数学的思考力を高めさせたい。また、生徒のノートを見ると自分の考えや式、計算を書くことの習慣が身につけていない生徒が多くいるので、この力ををつけさせたい。
図形	○本校の正答率は市平均より5.1%、県平均より6.8%高い。 ●線対称と点対称の問題に関しては市平均、県平均より上回っているが、達成率としてはやや低い。前年度と比較しても28.4%下回っている。	・平面図形については興味関心が高く、意欲的に取り組んだ結果と考えられる。2年次の図形の分野でも意欲的に取り組めるよう課題を精選し、取り組ませたい。また、対称の問題については、線対称と点対称を図形の学習の中で再確認していく必要がある。
関数	○本校の正答率は市平均より5.5%、県平均より7.5%高い。特に反比例のものを選ぶ問題では県の平均より18.1%高い。	・関数は多くの生徒が苦手意識をもつ領域であり、本校生徒も同じである。しかし、非常に重要な領域でもある。2年次で扱う1次関数において、比例反比例の復習を行いつつ、基礎事項を徹底させたい。苦手意識を払拭しつつ、発展課題にも積極的に取り組ませたい。
資料の活用	○本校の正答率は市平均より7.4%、県平均より7.8%高い。特にヒストグラムからの読み取りの問題に関しては県の平均より15.2%上回っている。 ●資料から判断する記述式の問題では、県平均より1.9%上回っているが、前年度と比べると30.6%下回っている。	・記述問題に関して抵抗があり、残念な結果になっている。今後は数学的に思考し、表現する力をつけさせたい。苦手意識を払拭しつつ、発展課題にも積極的に取り組ませたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	56.9	54.0	53.3
	身の回りの物質	53.5	52.9	50.0
	植物の生活と種類	66.3	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	57.0	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	48.7	48.2	46.7
	観察・実験の技能	64.2	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	62.2	61.4	59.2



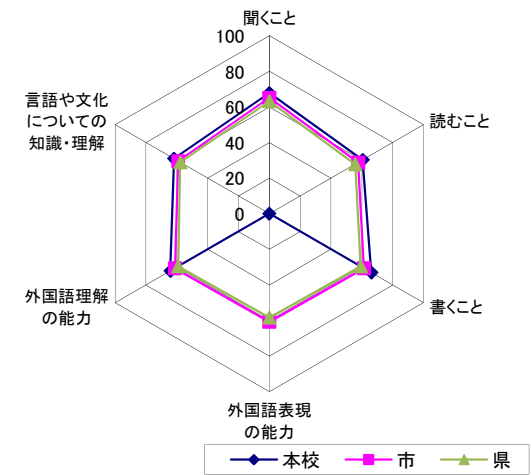
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○平均正答率は、県・市よりも高い。 ○力と圧力の分野での正答率が高い。 ●光の分野で、鏡に映る範囲に関する問題の正答率が低い。	・光と音の単位については、反射や屈折、振幅や振動数の基本は理解できているが、思考を伴う応用問題を苦手としている傾向がある。問題演習を行うことで、応用力を身につけさせたい。
身の回りの物質	○平均正答率は、県・市よりも高い。 ○特に、水溶液の濃度に関する問題では、比較的理解度が高い。 ●密度については、若干理解と定着が不足している。	・水溶液の分野については、県と市の平均を大きく上回っているが、正答率は5割を割っている。濃度の考え方などの振り返りと、問題演習が必要である。密度についても、単位体積あたりの質量という考え方を振り返り、問題演習が必要と思われる。
植物の生活と種類	○平均正答率は、県・市よりも高い。 ○特に植物のからだのつくりとはたらきについては、よく理解されている。 ●顕微鏡の使い方の手順について、本校の昨年度の正答率より低くなってしまった。	・生物の観察の分野では、県や市の平均は上回っているとはいえ、正答率は6割を割っている。器具の扱い方も含め、観察方法などの指導を強化する必要がある。
大地の成り立ちと変化	●平均正答率は、県・市より低い。 ○地層の成り立ちについては、県、市の平均を上回っている。 ●火山と地震、大地の成り立ちと変化に関して、理解と定着ができていない。	・この単元は進度の関係で、定期テストの範囲から外れた内容が多かった。このことが学習不足を招き、理解と定着の遅れにつながったと考えられる。第2学年でのテスト範囲に含めるとともに、復習の機会をもつことで、回復をはかりたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	67.9	65.2	63.2
	読むこと	60.5	57.6	55.6
	書くこと	66.1	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	65.7	60.7	58.4
	外国語理解の能力	64.3	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	61.9	59.2	57.8



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校の正答率は、市平均より2.7%、県平均より4.7%高い。また、他の領域と比べても高い正答率となっている。	・今後も、授業中のオールインタラクティブ(英語でのやりとり)を積極的に取り入れ、対話を聞き取る力と応答する力を伸ばしていく。 ・まとまりのある英文の概要・要点を聞き取る力を伸ばすために、ポイントになる情報をメモしながら聞く練習を継続していく。 ・英語の発音やリズム、自然なスピードに慣れさせるため、ALT(外国人指導助手)とのTTによる授業の際に、ALTの話す英語を聞き取る活動を多く取り入れる。
読むこと	○本校の正答率は、市平均より2.9%、県平均より4.9%高い。 ●他の領域(聞くこと、書くこと)と比べると、正答率は一番低くなっている。	・今後も、段落ごとや文章全体で何を言っているのかを簡単にまとめさせる練習を継続するなど、概要や要点をつかむための読み方の指導に力を入れる。 ・英文内容に関するQ&A(英語・日本語の質問に答える)を繰り返し実施したり、文章中に出てくる指示語が具体的に何を指しているかを常に考えさせることで、必要な情報を文章中から探し出す力を身につけさせたい。
書くこと	○本校の正答率は、市平均より4.7%、県平均より6.9%高い。 ○テーマに基づく作文の正答率は特に良好である。	・英作文の基礎になる語彙力・基本文型の定着のために、単語テストや文型テストを繰り返し実施する。 ・英語特有の語順の理解を定着させるため、単語の並び替え練習を多く取り入れる。 ・条件作文の力を伸ばすために、与えられた場面や対話の流れの中でどんなことを言えばよいかを考える練習や、条件に合わせてどの文型・表現を使えばよいかを考える練習を繰り返し、英文の運用能力を伸ばしていく。 ・テーマに基づく英作文の力をさらに伸ばすために、テーマごとに必要な関連語彙を豊富に紹介していく工夫をする。

宇都宮市立古里中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○話し合いに自分から進んで参加しているという肯定的回答が県平均より4,7%上回り、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができているという肯定的回答は83,2%で県平均より6,1%上回っている。本校の研究テーマである「学びあい」の成果が出ていると思われるので、今後も学びあいを取り入れた授業を進めていきたい。

○家で学校の宿題を全くしていない生徒は0人であった。また、学校の授業の復習をしているという肯定的回答は75,2%で県平均6,2%上回り、テストでまちがえた問題について勉強している生徒も県平均より4,8%上回っている。学校全体で取り組んでいる家庭学習ノートの活用が定着していることの現れと思われる。今後も継続していくと共に、家庭学習の内容を充実させたものにしていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」という問いに「はい」と答えた生徒が42,4%で一番多く、県平均より15%多い。また「どちらかといえば、はい」も含めると70%を超える。全教科で、自分の考えを書くことを授業に取り入れるようにする。

○「1カ月に何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがや雑誌は除く)」で3冊以上の生徒が57,6%で市の平均よりも13%以上多い。司書教諭並びに司書による本の紹介や図書室の活用を今後も進めていく。

●ゲームの使用時間が2時間以上の生徒が34,4%で県平均より4%多く、携帯電話やスマートフォンの使用時間が2時間以上の生徒が24,8%で県平均より5,4%多い。この現状を保護者会等で提示し、保護者の協力を求めている。

●食事のとき、好ききらいをしないで食べていると言う設問で「はい」と答えた生徒が36%で市の平均よりも15,9%も少ない。保護者に協力を求めると共に、給食指導でもこの結果を生かし、食育のなお一層の充実を図っていく。